

## 安藤 悠貴

- ・3月11日、僕は小学校6年生で学校にいました。クラスみんなで卒業式の歌を練習していました。2時46分誰もが想像していなかった地震が発生し、窓ガラスが割れ、物が落ち、クラスみんながパニック状態でした。
- ・津波が発生し家に帰れず、戻ることができたのは3日後のことでした。僕は家に帰るために近所の大人たちと一緒に山を登り、家に向かいました。家に着いたときに母が僕を見た途端、僕のことを強く抱きしめてきました。あの時はなぜ抱きしめてきたのかわかりませんでした。今なら理解することができます。
- ・東日本大震災から約3年がたち、僕は震災を通して、ボランティアや地域の人達との協力や支援、また、家族、知り合いの人達との強い繋がりを得ることができました。現在、僕が住んでいるところは少しずつ復興してきていますが、中学生としてどのようにかかわっていくかを考えてみると、地域を明るくすることだと思います。
- ・そのために、牡鹿中生としてソーラン侍を踊り続けることで、地域の大人を元気づけ、また、これまで支援してもらった方々に感謝の気持ちを持ち続けたいと思います。
- ・最後に、この場所で震災のことを発表できたことを誇りに思います。